

あんなこと、こんなこと

関市イメージキャラクター
「関＊はもみん」



5月15日～31日にあった
市内の話題を中心に
ご紹介します。

米づくりは僕らにまかせてね

武儀西小学校では毎年、地域で子どもを育てる会の協力により、もち米を栽培しています。この日は、4～5年生児童が、今年4月にもみまきをして育てた苗を、安田守さん（下之保）の田植え機に乗せてもらい田植えをしました。一人ずつ交替で乗り、曲がらないように慎重に機械を進めると、畦にいる友達から声をかけられても、表情を変えることなく真剣そのもので作業。普段体験することのない機械植えで、米づくりに挑戦しました。



まわしを締めて熱戦

わんぱく相撲関場所が市総合体育館で開かれ、市内の児童らが優勝目指して力強い熱戦を繰り広げました。児童の健全な育成を図ろうと毎年開催され、今年は約250人が出場。保護者や友人の応援を背に、子どもたちは気合十分で激しくぶつかったり、足を掛けて投げ技を披露したりと、迫力ある相撲を見せていました。また、礼儀作法も学び、心と体を鍛えました。



見えた!感動した!光のリング

何百年に一度の機会となる「金環日食」を観察しようと旭ヶ丘中学校で観察会が開かれ、集まった生徒約350人は、美しいリング状となった歴史的瞬間に歓声を上げました。早朝から登校した生徒らは、学校グラウンドに散らばり、日食専用グラスやピンホールシート、天体望遠鏡の光の像を映し出す観測装置などを使ってそれぞれの方法で観察を開始。環の瞬間を捉え、世紀の天文ショーを心に刻んでいました。



むかし話第3弾編集始まる

地域に残る昔話や戦争の話を口伝えて残すことが難しい昨今、活字にして後世に残したいとNPO法人日本平成村「武儀のむかし話伝説口マンの会」が、精力的に動いています。3冊目にあたる「武儀のむかし話（昭和・平成編）」の発行に向け、会員が地域の方に古くから言い伝えのある話や、戦時中の事実などを聞いて回り、30話ほどをまとめ上げる予定です。平成26年度末発行を目指して今後も定期的に集まり、作業を進めます。



特定外来種の花を駆除

「中池」の堤防で、在来植物を駆逐する特定外来生物に指定されている「オオキンケイギク」の駆除が行われ、中池いけ干し実行委員会の呼びかけで、地元住民ら約30人が参加しました。初夏にコスモスに似た黄色の花を咲かせるオオキンケイギクは、以前はよく栽培されていたものが野生化した植物で、栽培も禁止されています。手作業で抜き取り、在来植物が豊富で身近な美しい水辺環境を守りました。



地域活動の潤滑油に

地域委員会の設立および運営にあたり、地域課題の洗い出しや地域振興計画の策定（ワークショップ）に関わる業務を支援する「関市地域支援職員」制度ができ、12人の市職員が任命されました。本年度地域委員会の試行的な取り組みを始める田原・武儀・上之保の3地区で、会議への参画、活動に関する助言や市当局との調整などの事務を担います。先導的に地域づくりの職務にあたり、地域委員会制度を構築していきます。



感謝込め 110 番の家訪問

博愛小学校全校児童が、校区内にある「子ども110番の家」を下校時に訪問し、協力のお礼を伝えようと手紙や花を贈りました。子ども110番の家は通学路の安全を見守り、児童が緊急時などにいつでも駆け込むことができるよう、校区内に27箇所設置されています。児童会の環境委員会の子どもたちが準備した花鉢を手渡し、元気よくあいさつしながら、日ごろの見守り活動に感謝の気持ちを伝えていました。

こぼれ話

「我が家でもできる節電対策」の取り組みの一環でグリーンカーテン、今年はゴーヤ（去年はヘチマ）です。両親が畑で栽培するゴーヤの苗を5つ、プランター用にわけてもらいました。聞くとところによると、どうも種子からの発芽は難しいようですね。というわけで5月の中旬にプランターに植えた苗は、5月末には1メートルほどになり黄色い花も咲いて、現在もすくすくと成長中。

やっぱり今回はゴーヤの成長が順調なのは、毎日世話をしてくれている母のおかげですm(_)_m

涼しさとゴーヤを使った料理で夏バテ対策効果に期待できそうです。今年もグリーンカーテンと母に感謝！

そして、エコな取り組みをもう一つ、5月になって天気の良いときは自転車通勤をしました。夏が近づき、だんだん気温も高くなってきますので、いつまで続けようか悩むところですが、普段運動をしていないのでせめてこれくらいはと・・・健康のためにも、できるだけ続けたいと思っていますが、どうなることやら(^_^)

